

バスの車窓から見た土砂崩れ



能登半島



重度障がい児支援 花色

NEWS LETTER

奥能登豪雨 [水害支援へ]

10月1日富山空港を離陸した飛行機の窓の下に、蒼い能登半島が広がっていました。
～穏やかな生活が戻りますように～と、ただただ願い北海道に帰りました。

元旦の地震後、長い避難所生活(体育館)から仮設住宅へ移り、生活を取り戻しつつあった先におきた奥能登豪雨。輪島市は、たった3時間で“例年の9月の雨量”を越え、川が氾濫。『地震の影響で地盤沈下し、川の堤防が下がってしまった可能性がある。』と報道されましたが、川として機能する上限を超える大雨であったことは間違いありません。その時、能登半島の福祉ボランティアの受け入れは止まっていました。“被害状況の把握が進まなく、受け入れられない…”。とはいえ、支援者が足りない聞き、できる限りのことをしたいと青年海外協力協会(JOCA)さんの活動拠点に急ぎました。水害時の災害支援については、旭川市役所の職員さんから、かつての経験を伝えて頂き、想定される“泥の撤去”や“大型家電等の荷運び”の他“感染症(破傷風、レジオネラ肺炎、ノロウイルス等)の予防”については準備をし、急ぎ出発しました。



朝市

5月に能登半島の支援に入ってから4か月。主要道路は対面交通ができる状態まで整備されていました。焼き崩れてしまった“朝市”も、見通せるほどガラんとし。町の中には重機も入り、瓦礫撤去が進みつつある様子がみられます。復興にむけて動きつつある風景ですが、更地も増え、物悲しくも感じました。そこに浸水した家具等が天日干しされています。



私が前回に引き続き、能登半島支援でお世話になった“青年海外協力協会(以降、JOCA)”さんは、青年海外協力隊(JICA)の帰国隊員を中心に組織され、開発途上国支援で培ったノウハウを国内の地域社会に貢献している団体になります。

震災時から“能登半島の地域支援”を行い続けており、支援内容は、臨機応変な対応が求められていました。直接支援の時もあれば、コーディネート業務を行っている時もあります。9月の水害時は、人手も足りず全国の各JOCA拠点地からの支援者が入っていました。

輪島市の床上浸水をした仮設住宅団地の室内は、1週間が経過しても泥水が乾かず、電気が切れた冷蔵庫の食材は腐り漏れ、どこから手をつけたら良いかわからない状態です。私が支援に入っていた期間中は気温27° 肌を守るため長袖長ズボンで熱がこもります。自宅の水洗トイレが使えず、片付け中も飲水を控えている方もいました。また、仮設住宅の外は乾いた泥が風に舞い、視界を曇らせています。咳き込む住民の方々も多くいました。「咳がでもそれどころじゃない。」と言います。なにせ、被災後7～10日後には荷物をまとめ、廃棄物を出し、泥掃除を終わらせ、仮設住宅を明け渡し、避難所に移らなければなりません。修繕がすぐに始まるのです。一件ずつ進捗状況を聞き込んで、「日帰りボランティア」が続々とバスから降りてきます。限られた時間と、都度変わる状況にあわせ、JOCAはボランティアを班分けし、被災された方々の要望に迅速に応じていきます。しかし、思いがけないことが次々におこります。依頼者の迷い…「ボランティアさんがいるうちに重いものは捨てたいけれど…」。「新品の家電。水没しても使えるかもしれない。」「息子の物は勝手に手をつけられない。」～この、どのような状況にも被災者の方が納得して決断する事が大切になります。寄り添いつつも円滑に、次できる事にむかって進む方法をJOCAの皆様は教えてくださいました。

あるおばあちゃんが大雨の日のことを話してくださいました。「ふくらはぎ位の(床上)浸水でも、とっても怖かったよ。玄関の“引き戸”が(水圧で)開かなくて、床下の(点検口の)蓋が浮いて流れてしまい、泥水の中どこに穴があいているかわからない。『バチが当たる。』』と思いつながら恐る恐る歩いた。そしたら冷蔵庫が水(浮力)で倒れ、さらに逃げ場がなくなった。」と言います。

ある方は、「輪島は昭和34年にも大洪水があって、その後河川が整備された。なのに、再び川が溢れるなんて思ってもいなかった。」「この言葉を聞いた時、ふと“川にかこまれた旭川市”の現在が重なりました。河川も整備され、勝手に安心だと思っている私がいま。どんなに人間が努力しても、自然の力には太刀打ちできません。わたしたちは、一口に「防災」といいますが、地震の時。水害時。どこまでイメージをして災害対策をしているでしょうか。家族分の長靴は用意していますか？床下点検口の蓋の位置を把握していますか？冷蔵庫や棚には転倒防止の固定はできていますか？災害がおこってからではなく、平時から地域全体で助け合うための繋がりを得て話し合い、必要なものを揃えてこそ、家族や、身の回りの方々を助け、支えられるのではないのでしょうか。能登半島の皆様が一日も早く、平穏な暮らしに戻れますようにお祈りしています。そしてJOCAの皆様、本当に有難うございました。



輪島の青年海外協力協会 (JOCA) の皆様



様々なことを教えて頂き
心より感謝しております。



重度障がい児支援 花色 NEWS LETTER



あそんでね



新しいお友達

9~10月上旬の「スポーツの秋」の花色



りんたろ〜君一緒にあそぼ

ね・・・眠いよお

FIGHT!

玉入れ

YEEAAAH!

被災地に行って学んだこと

私のリュックサック

9月の支援は最短の交通手段で(JR、飛行機、新幹線、バスを経由し)能登半島に行きました。ギューギュー詰め50リットル登山リュックを背負い13時間の移動。何が困ったって・・・それはトイレに荷物が入らない事です。席を確保した飛行機が唯一のトイレ休憩がとれた時間でした(笑)



15Kg超のリュック

防水ウイオ*ブレーカー上下、帽子、ヘルメット、ごみ袋、うがい薬(喉、鼻)、とげぬき、N95マスク、日本手ぬぐい、ゴーグル、目薬、爪切り、革の長手袋、ゴム長手袋、踏み抜き防止インソールを入れた長靴(足首固定ゴム)、次亜塩素酸水シート、アルコール、クリップボード、鈴、着替え、アウトドア用タオルケット

がんばろう能登

おすすめ

ホテル スカイニセコ



北海道

旭川に来る前、わたしは倶知安(ニセコ山系)に住んでいました。外国人の移住者が多く、娘の同級生は多国籍のこども達も多く、多くの文化を感じる事が、この町にはありました。今も変わらず看板には英語と日本語が入り混じっています。

先日、13年ぶりに倶知安に帰省しました。晴天の中、羊蹄山(蝦夷富士)がとてもキレイに映えました。

さて、今回宿泊したホテルは倶知安町ヒラフスキー場にある『スカイニセコ』です。こちらのホテル、車いすの方や、高齢の方への心遣いが気持ちく、食材は地元のもの、ふんだんに使われています。

温泉の貸し切りもでき、ゆったり過ごすことができるホテルです。(こんなお部屋ですー) スキーシーズンはお高めですので、時期をちょっとはずしてのご利用がおすすめです。

